

ワークサンプル幕張版（MWS）新規3課題 の活用モデルの作成について（経過報告）

- 藤原 桂（障害者職業総合センター 主任研究員）
田村 みつよ・村久木 洋一・武澤 友広・知名 青子・大谷 真司
（障害者職業総合センター）

はじめに

<既存課題>

ワークサンプル幕張版(以下「MWS既存課題」という。)を、2007年度より市販開始。

アセスメント、作業遂行力の訓練などのために、様々な就労支援機関等で広く活用。

<新規課題>

2019年 新規課題(給与計算、文書校正、社内郵便物仕分)(以下「MWS新規課題」という。)を開発。

MWS新規課題の作成の意図①

MWS既存課題では・・・

- ◆ 利用者
利用者によっては、MWS既存課題は難しくない内容。

- ◆ 支援者
 - ・MWS既存課題では利用者の課題が現れにくい場合がある。
 - ・すぐにできてしまう課題ではなく、時間をかけて取り組める課題があると良い。

給与計算

給与計算

次の社員の、4月支給の給与を計算してください。
 社員番号30011、女性、30歳、非役職、資格なし、標準報酬月額240,000円
 通勤手当:公共交通機関利用の定期代(1ヶ月)
 控除対象配偶者:なし
 控除対象扶養親族:なし
 1ヶ月の所定労働時間:162時間、普通残業20時間
 所得者本人:障害者に該当

開始時間 : 15:58:11
 経過時間 : 3分 54秒
 ブロック数 : 1/ 1
 LEVEL : 3
 試行数 : 1/ 6

基本給	199720	健康保険料	
役職手当		厚生年金保険料	
扶養手当		雇用保険料	
通勤手当	7300	所得税額	
資格手当			
残業手当			
総支給額	207020	控除額計	0
		差引支給額	

休憩

◆計算補助

残業手当の時間単価計算
 基本給
 $(\text{ } + \text{ } + \text{ }) \div \text{ } = \text{ }$

残業手当計算
 $\text{ } \times \text{ } \times \text{ } = \text{ }$

課税対象額計算
 給与総額
 $\text{ } - \text{ } - \text{ } - \text{ } - \text{ } = \text{ }$

●画面に表示された社員1名分のデータをもとに、給与計算に必要な各項目の値を計算し、指定されたセルに入力する。

●計算方法を記載したサブブックと別添資料(保険料額表、源泉徴収税額表)を参照しながら作業を行う。

文書校正

二年、三年、田舎の生活に年期を入れてくるに従って、東京から送られる郵便物や、雑誌の数がすくなくなると、その郵便物の減りかげんは、田舎への埋れようの程度を示す。自分がここにいるということを人に知られずに、垣間から舞台をのぞき見するのはこころよいものである。私が東京を去って、この七月でまる四年になるが、その間に、街路や建物が変化したであろうと想像される以上に人間が特に文学の上で変わっていることが数すくない雑誌や、旬刊新聞を見ても眼につく。殊に、それが現実の物質的な根拠の上に立っての変化でなく、現実の掛声に過敏になりすぎて——あるいはおびえて飛び立っているように感じられる。めまぐるしい文学上の主張や流行の変化を田舎にいて一々知り得る由もないが、わけてもこの頃のあわだたしさは、東京にいても、二三月仕事に打ちこんで新刊の雑誌新聞に目を通すひまなしにしようものなら、取り残されて分らなくなるのではある



校正

二年、三年、田舎の生活に年期を入れてくるに従って、東京から送られる郵便物や、雑誌の数がすくなくなると、その郵便物の減りかげんは、田舎への埋れようの程度を示す。自分がここにいるということを人に知られずに、垣間から舞台をのぞき見するのはこころよいものである。私が東京を去って、この七月でまる四年になるが、その間に、街路や建物が変化したであろうと想像される以上に人間が特に文学の上で変わっていることが数すくない雑誌や、旬刊新聞を見ても眼につく。殊に、それが現実の物質的な根拠の上に立っての変化でなく、現実の掛声に過敏になりすぎて——あるいはおびえて飛び立っているように感じられる。めまぐるしい文学上の主張や流行の変化を田舎にいて一々知り得る由もないが、わけてもこの頃のあわだたしさは、東京にいても、二三月仕事に打ちこんで新刊の雑誌新聞に目を通すひまなしにしようものなら、取り残されて分らなくなるのではある

●コラム、事務文書、報告書などの印刷物を用いて校正作業を行う。

●原稿と校正刷りの文字等を引き合わせ、サブブックや報告書作成規定に従い、校正記号を用いて校正刷の誤りを修正する。

社内郵便物仕分



仮想の会社に届いた葉書や封筒等郵便物を仕分のルールに従い、組織図、社員名簿、あいうえお索引を参照しながら、適切なボックスやフォルダーに仕分ける。



MWS新規課題の作成の意図②

MWS新規課題の特徴は・・・

- ◆ MWS既存課題よりも難易度が高い
作業手続きや判断力が実務で求められるレベルに近い。
サブブックの読み込み等各種資料の理解が必要。
正解を求めるための集中、記憶などへの負荷が高い。
- ◆ 課題を遂行する上では利用者自身による工夫が必要
指差し確認、読み上げ、メモ書き、ふせん紙の使用など。

研究の視点

新規課題には、以上のメリットがあるものの・・・

- MWS新規課題はMWS既存課題よりも課題の構成や採点も複雑化している。
- MWS新規課題を活用する支援者への負担は、MWS既存課題に比べて大きくなっていると考えられる。

以上のことから、MWS新規課題の活用を考えている、あるいは既に導入したが効果的に使えているか不安だという就労支援機関等への情報提供の必要性が考えられた。

研究の視点(続き)

- 地域の就労支援機関等を利用する多様な対象者や各機関が担っている機能に応じたMWS新規課題の活用方法を、障害者職業総合センターNo.145の報告書で述べられている「MWS新規課題を実施する際の留意点」(「新規課題を活用するタイミング」「モチベーションの維持」等)を踏まえて検討する必要がある。
- これらの視点をもとに、MWS新規課題の活用方法を提案するための「活用モデル」の作成を目的とする調査研究を2022年度から2023年度にかけて実施することとした。

研究計画

(1) アンケート調査

地域障害者職業センター、MWS新規課題を購入した就労支援機関等を対象にMWS新規課題の活用状況(活用の有無、活用の仕方など)を調査。

(2) ヒアリング調査

障害者職業総合センター職業センター(以下「職業センター」という。)、地域障害者職業センター、地域の就労支援機関等を対象にMWS新規課題活用事例の収集を行う。

研究計画

(3) 活用モデル(案)の作成

(1)(2)を踏まえて、「活用モデル(案)」を作成する。

(4) 専門家ヒアリング

外部専門家からの意見を踏まえて「活用モデル(案)」を改善する。

(5) 実装評価

(1)～(4)を通じて作成した活用モデル案を地域の就労支援機関等での支援の中で使用・評価してもらい活用モデルを完成する。

研究の進捗状況

(1) アンケート調査

2022年7月6日～7月21日の間に地域センター及びMWS新規課題を購入した就労支援機関等を対象に行った。

アンケート調査の内容及び集計結果等については、本論文集の『ワークサンプル幕張版(MWS)新規3課題の活用状況調査報告』で速報値として示した。

研究の進捗状況

(2)ヒアリング調査

2022年6月～10月の間に、職業センター、地域センター、地域の就労支援機関で就職又は復職に向けてMWS新規課題を活用した支援を受けている利用者に関する事例を収集している。

今回の報告では職業センターで収集した事例を表1に示す。

研究の進捗状況

表1 ヒアリング調査結果（事例収集）

事例	障害名（課題）	課題の使用目的	使用した効果	
A	注意欠如・多動性障害 (スケジュール管理)	①社内郵便物仕分 (訓練版)	自分自身で工夫（補完方法を活用）することで課題のレベルが上がっても、続けて取り組めることが分かり、自信につながった。	
		②給与計算（訓練版）		作業管理支援への準備
		③文書校正（訓練版）		就職に向けた準備
B	注意欠如・多動性障害 (メモを取ること)	社内郵便物仕分 (訓練版)	作業管理支援への準備	課題の内容等について自らの意見を述べる場面があった。コミュニケーションを振り返るきっかけとなり、対人技能等の訓練を受けたり対処方法の検討につながった。
C	アスペルガー症候群 (集中の困難：背景に睡眠管理の不調)	社内郵便物仕分 (訓練版)	作業管理支援への準備	いくつかのケアレスミスがあったことから作業手順以外に、あて名の確認、ファイルに確実に入れるようによく見る、などの注意ポイントが理解された。作業中の様子を振り返る中で睡眠のあり方について見つめ直した。

研究の進捗状況

(3) 活用モデル(案)の作成

アンケート調査、ヒアリング調査の結果を踏まえて、MWS新規課題の活用方法を分かりやすく伝えるための「活用モデル」を作成することとしている。

活用モデルは以下のことを考慮して作成する

- ①MWS新規課題をどのように使えば良いのか、を表す概念図とする。
- ②MWS新規課題を使ったことがない支援者にも分かりやすい内容とする。
- ③MWS新規課題を使っている支援者にも参考となる内容とする。

5. 文書校正(訓練版)の活用モデル(案)

どのような特性のある対象者に？

- ・知的障害を伴わない発達障害や気分障害のある方。
- ・注意集中ができる程度に回復されている高次脳機能障害、統合失調症のある方。
- ・その他、サブブックを読んで理解が可能な方。
- ・就職、復職に向けて事務的作業の中の文字、数字、文章のチェック、訂正などの作業を行う見込みがある方。

支援のどの過程・場面で？

- ・職場への復帰、就職を目指した訓練場面。
- ・就労移行支援等の訓練場面。

どういった目的で？

- ・復職・就職、事業所での実習にあたり、事務的な作業が考えられる場合の訓練のため。特に、事務的職業で一般的に求められる原稿と照らし合わせて文書を見直し、誤字や表現を修正する作業等が考えられる場合の訓練のため。また、実務に近い作業で訓練を行うため。
- ・サブブックと文書作成規定を理解し、校正作業を繰り返し行うことで、作業能力の向上、補完方法の検討を行うため。

期待できる効果は？

- ・補完方法として、文書・文字の「見直し」(文字単位での見直し、単語単位での見直し)、定規を活用する方法などを繰り返し学習することができる。
- ・作業の性質上、対象者はどの位置にどのような校正箇所が設定されているか見通しを持つことができず、一定時間広範囲に注意を持続することが必要であることから、新規課題の中でも疲労の現れ方を把握しやすい、とされている。また、その分、「集中力が鍛えられて良い」という対象者もいる。

留意事項

- ・文書校正では作業手順などの理解が不十分な場合に、必要のない体裁の修正(過剰修正)をしたり、体裁に気を取られて修正箇所の「見落とし」が発生しやすいため、作業前にサブブックに記載されたルールや報告書作成規定の内容を十分に理解する必要がある。
- ・文書校正では各試行毎の作業時間が長くなりやすく、作業精度を上げるために見直しを行うことで疲労が高まることが考えられる。そのため、作業精度を上げるために見直しごとに休憩や気分転換を適度にとることが大切となる。

研究の進捗状況

(4) 最終成果物の検討(案)

MWS新規課題を様々な支援機関で使用してもらうために、活用方法を示す「活用モデル」以外に、MWS新規課題の開発の意図や、使用する上で留意すべき点等をまとめて掲載した「ハンドブック」を作成する。

1	留意事項	MWS新規課題には、MWS既存課題とは異なる開発の意図や、使用する上で留意すべき点があるため、それらの留意点をまとめて掲載する。
2	活用モデル	MWS新規課題の対象者像、活用する場面、活用するタイミングなどを概念図としてまとめる。
3	活用事例	活用モデルに書かれた内容を具体的に理解する資料として、先行研究及びヒアリング調査結果をもとに作成した支援事例（活用事例）を掲載する。
4	Q & A	アンケート調査やヒアリング調査の中で収集した支援者からの質問や疑問等をもとに、解決策が提案できる事項については回答を掲載する。

今後の研究活動

アンケート調査の回答の中に示されている「MWS新規課題を活用していない理由」については、活用に向けて可能と考えられる方策を検討し、様々な質問等についても可能な限り回答を検討し、支援の場に役に立つハンドブックを作成することとしている。

ありがとうございました。